



新年のごあいさつ

誰もが輝いて 自分らしく暮らせるまちに



八頭町長 吉田 英人

新年明けまして、おめでとうございます。町民の皆様には、ご健勝で輝かしい令和6年の初春をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃より町政全般に対しまして、格別なるご理解とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが、5月8日に「2類相当」から「5類感染症」へ移行したことにより、これまで中止や規模縮小となっていた催しが従来の対面形式で開催されるようになり、さまざまなイベントで多くの町民の皆様の笑顔に接する機会をいただきました。

穏やかな日常が戻りつつあると感じる一方で、海外に目を向けますと、

シヤによるウクライナ侵攻、パレスチナ自治区のガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマスとイスラエルの武力衝突が拡大しています。

私たちは「戦争は最大の人権侵害」であると学んできました。多くの人命の命が奪われているこの現状が一日も早く収束し、安息の日々が訪れるよう、反戦と平和を求めるメッセージを発信し続けていかなければなりません。

こうした情勢は、世界経済を混乱に陥れ、日本の物価高にも拍車をかけることとなりました。円安、燃料・物価の高騰などが続いていることから、町内商店の支援、町民の皆様の生活応援の一助になればと、年末に町民の皆様方お一人に5千円の「八頭町生活応援商品券」をお届けしています。あわせて、国の補正予算に盛り込まれた「住民税非課税世帯への給付金」につきましても、早期の支給に取り組んでいるところ です。

また、昨年の夏は全国的に異常気象に見舞われた夏でもありました。梅雨前線による九州北部、秋田の災害、7月後半からはゲリラ豪雨と連日の猛暑が続き、「熱中症」「感染症」など、暑



すぎる夏が引き起こす健康被害も多く報告されました。

そうした中、本町においても、8月15日の台風7号による記録的な豪雨により、上私都地区から下私都地区にかけて私都川の護岸が崩落し、県道、町道に甚大な被害が出ました。農林業関係では、林道の路肩の崩壊、農道橋、頭首工の流失、耕作田への土砂流入、畦畔の崩落など、大きな被害を受けています。被災された地域の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。また、災害支援金として、全国の多くの皆様から浄財を寄せていただきました。厚くお礼申し上げます。現在、被災箇所を早期復旧に向けて災害復旧事業に鋭意取り組んでいますが、改めてソフト・ハードを含めた防災対策の再点検を行い、「安心安全を実感できるまちづくり」の実現に取り組んでまいります。

暗いニュースが多かった中で、八頭町の子どもの活躍はとてもしっかりい話題となりました。鳥取県小学生空手道選手権大会で優秀な成績を取めた郡家空手道部、船岡空手道部所属の4名の選手の全国大会出場、子ども自転車鳥取県大会で優勝した八東小学校チームは全国大会で見事5位に入賞しました。八頭中学校女子駅伝部は、鳥取県中学校駅伝大会で3年連続4回目の優勝を果たし、全国大会では力強い走りで襷をつないでくれました。

「まちづくりは人づくり」を基本理念に、八頭町の次代を担う子どもたち

が、ふるさと八頭に誇りを持ち、将来への大きな夢や希望を持ち続け、その夢に向かってたくましく進んでいけるよう支援してまいります。

令和6年は、「第2次八頭町総合計画・後期基本計画」および「第2次八頭町総合戦略」の計画期間が終了する年となります。これまでの取り組みを振り返り、その総仕上げに向かうと同時に、「第3次八頭町総合計画」の策定に着手するとともに、庁舎の整備構想の検討に入ってまいりたいと考えています。

八頭町が抱える少子高齢化、買い物環境の維持、移動手段の確保など、地域課題の解決に向けて、SDGsの推進、DXの効果的な活用も図りながら、将来にわたって持続可能な地域社会の構築を目指し、計画に掲げる政策・施策を着実に推進することとしております。

私たちが目指す「八頭町」は、どのような時代であっても、また、どのようにに厳しい状況下にあっても、老若男女、ハンディキャップのある人もない人も、希望をもって、誰もが自分らしく輝いて暮らし続けることができる地域共生社会の実現です。「人が輝き未来が輝くまち八頭町」の創造に全力を尽くしてまいりますので、町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、新しい年が町民の皆様にとりまして、健康で幸多き飛躍の年となりますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。